

イベントカレンダー

地域を彩る楽しいイベントが盛りだくさん。
与板の魅力を存分に楽しもう。

春

●城山山開き

4月中旬
与板城跡(城山)のシーズン中の安全祈願をし、当日は狼煙や神事等のイベントを開催します。

●旧黒川に鯉のぼり

4月中旬～5月下旬
旧黒川の水辺に桜の季節に合わせて、鯉のぼりが泳ぎます。



●十一面観音まつり(春)

4月中旬
楽山苑内にある観音様のお祭り、春秋の2回開催されます。

●楽山苑ライトアップ

5月中旬
大坂屋三輪家の別邸やツツジの咲く頃、苑内をライトアップし、お茶会や雅楽の演奏会など、多彩なイベントが行われます。



●観光まつり

5月中旬
特産品販売や体験、楽しい企画満載。

楽山苑

夏

●新潟別院お取越

6月25日～27日
報恩講に合わせ100以上の露店が立ち並び、町内はもとより近郊からも大勢の参拝者で賑わいます。

●ホテルまつり

6月下旬
千体川河川、関ノ入山間部で、飛舞するホテル群と幻想の光が鑑賞できます。

●中川清兵衛サッポロビールフェスタ

7月下旬
巨大なビアガーデンが待っています。



日本のビール醸造の創始者、中川清兵衛

秋

●与板十五夜まつり

9月中旬
登り屋台や民謡流し・創作みこしなど、観衆を魅了する多彩な催しがあります。



与板十五夜まつり

●与板天地人行列

10月上旬
与板の戦国絵巻。与板衆の武者行列がまちを練り歩きます。



与板天地人行列

●ふいごまつり

11月上旬
かじやの伝統的な道具と伝統技法の継承。古式鍛錬儀式にのっとり、烏帽子、白装束といういでたちで、鑿(のみ)や鉋(かんな)を作ります。



ふいごまつり

お問い合わせ

長岡市与板支所 地域振興課

〒940-2492 新潟県長岡市与板町与板甲134
TEL 0258(72)3100(代表) FAX 0258(72)3331
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/yit-chiiki@city.nagaoka.lg.jp>

発行 | ながおか市民協働センター(らこって特別号) 2013年3月

表紙題字: 吉田直治(越後長岡 与板ゆかりの日本画展 実行委員会)

平成ゆかりの日本画展 「まるごと与板」出陣!

与板が大好きだという住民の思いが「新たな市民協働」を実現 与板から全国へ!



「日本画展」と「まるごと与板」に全校で来場した与板小学校の子どもたち

Contents

特集 ● 平成の与板衆がイベントを振り返る!

- 「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」「まるごと与板」実行委員による座談会「つなげる」「伝える」
- 与板衆 感動と想い

メッセージ

大矢紀画伯/三輪晃久画伯/大矢十四彦画伯
森 民夫(長岡市長)
浅井俊一(コーディネーター)/渡辺千雅(司会)
ボランティア/参加団体



新潟県長岡市

交通 | JR長岡駅からバスで30分
関越自動車道長岡ICから車で約20分
北陸自動車道 中之島見附ICから車で約10分

越後長岡 与板ゆかりの日本画展



大矢 紀

長岡市名誉市民、日本美術院同人・評議員

新潟県長岡市のシンボルとして、アオーレ長岡が誕生したことは、越後に生を受けた者の1人として誇らしく思います。隈研吾氏の設計は、とにかくユニークで、地域発展の起爆基地としての利便性は言うまでもなく、市民生活や芸術文化、スポーツ等を皆で共有できる素晴らしい施設です。そのような場所で、「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」に元与板町長の山崎実行委員長を中心として、多くの方々が一生懸命に協力され、日展の三輪晃久先生、弟の大矢十四彦、そして大矢紀の3人展が開催できたことは、大変うれしく感謝申し上げます。

また、期間中、いろいろお気遣いをいただきました森市長さんをはじめ、実行委員およびボランティアスタッフの皆さまに、厚く御礼申し上げます。

多少なりとも、ふるさとの方々に私たちの作品を通して、文化の恩返しの一部になったらうれしく思います。



『妙見天空』 作/大矢 紀
182cm×182cm



三輪 晃久

日展評議員、日春会委員、全関西展運営委員

アオーレ長岡が開館してからもうすぐ一年になろうとしています。開館を記念して「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」が開催されて多勢の来場者で賑わったことは、出品者の一人として誠にうれいことであります。

展覧会の開会までに、長い時間をかけて準備をされた日本画展実行委員の方々の労も報われたことでありましよう。実行委員の方だけでなく、お手伝いされた多くのボランティアの方々、開催にあたってご協賛をいただいた企業や個人の方々に対しても、出品者の一人として心より感謝し御礼を申し上げます。

与板衆のパワーに敬服するところですが、これを機にさまざまな分野でのさらなる文化力のパワーアップに繋がっていかねば、意義のあったことと言えないのではないのでしょうか。



『八海山』 作/三輪晃久
190cm×190cm



大矢 十四彦

日本美術院特待

アオーレ長岡での「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」では実行委員、ボランティアの方々、御援助いただいた協賛者の皆様には大変お世話様になり、有難うございました。厚く御礼申し上げます。

昭和37年初入選から早いもので50年が過ぎました。芸術の道のりの中途ですが、自分を振り返る意味でこのアオーレ長岡での展覧会は多くの人に御高覧・御高評いただき、今一度、心新たに出発する機会になりました。

絵を描く者は、どんな小さなことにも感動して自然と向き合い、新たな感動を求め勉強して行きたいと思っております。それが見る人に少しでも感動をお分け出来たらと思ます。

今後とも何卒よろしく御指導御鞭撻の程、お願い申し上げます。



『明けゆく』 作/大矢十四彦
220cm×180cm

これら3点の絵画は、日本画展に合わせて長岡市に寄贈

アオーレ長岡のオープンを祝し、日本画壇の重鎮である大矢紀・三輪晃久・大矢十四彦三画伯の日本画展を開催し、与板が誇る芸術・文化を全国に発信しました。



森 民夫

長岡市長

与板の皆さんからは、合併地域で一番初めにアオーレを会場として催しを開催していただきました。

長岡が誇る日本画の巨匠、大矢紀先生、三輪晃久先生、大矢十四彦先生の御三方による「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」の開催。そして、与板の魅力を存分に発信した「まるごと与板」など、多くの市民の皆様楽しんでいただけたと思います。

特に、「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」は2年間にわたり準備を進めてきた実行委員の皆様との並々ならぬ気概に感服の思いです。

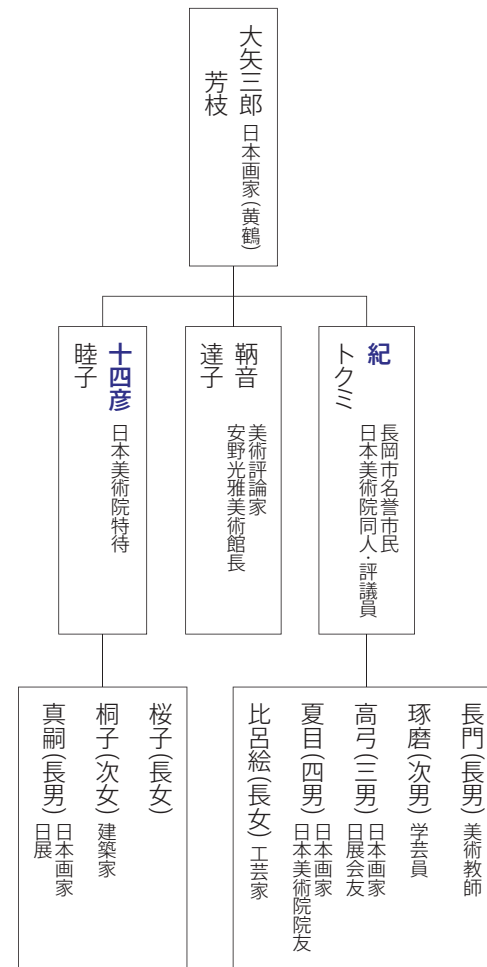
これらの取り組みは、企画・運営された実行委員の皆様はもとより、与板地域住民全体の自信と誇りにつながったと思います。今後も引き続き、この自信と誇りを胸に、地域の活性化に取り組む続けていきたいと願っております。

結びに、与板地域の皆さんがますます元気に活動される事を願い、私のごあいさつとさせていただきます。



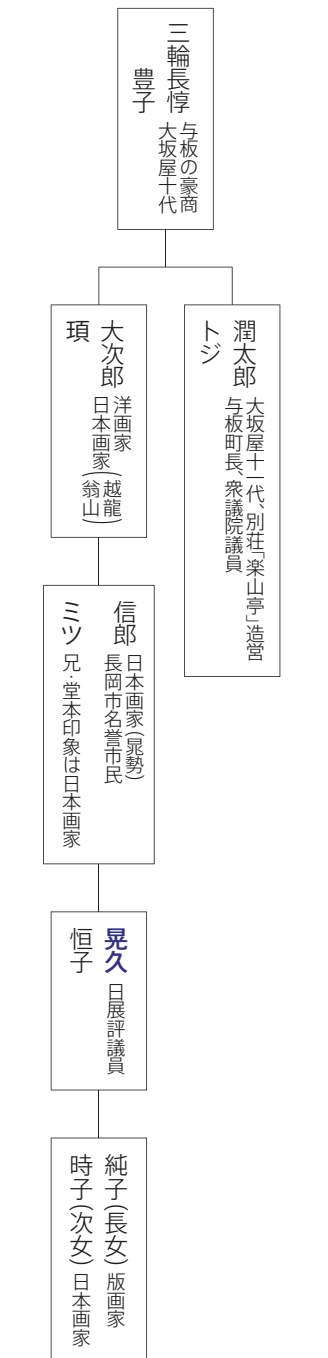
日本画展の会場風景

大矢家略系図



三画伯から長岡市への絵画寄贈に伴い、市長から感謝状の贈呈

三輪家略系図



三画伯によるトークイベント



トークイベントで与板中学校生徒から三画伯に質問



コーディネーター 浅井 俊一
前新潟県立近代美術館副館長、元長岡市立与板中学校校長

かけがえのない新潟の故郷

与板は第二の故郷だという思いを再確認させてくれた「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」でした。また、滅多に聞くことのできない三画伯の制作の精神や壺を、あの隅研吾さん設計のアオーレ長岡で聞くことができたことは、美術家の端くれとして至上の喜びでした。

実は、この大成功は事前に予見できるものでした。というのは、私が与板中に赴任当時、「地域の物作りの精神や暮らしの文化や人材だけが、次代を担う若者を育てる」という思いの実現を手助けしてくれたのが、内藤さんはじめとする「好きらて与板」のメンバーでした。同じメンバーですから成功間違いなしと確信していました。また、何度も近代美術館や遙か離れた五泉まで打ち合わせに足を運んで頂いた実行委員会みなさんに敬意を表します。そして、渡辺千雅さんという新しい人脈を広げて頂いたことにも感謝しています。



司会 渡辺 千雅
長岡フィルムコミッション会長

与板衆の結束力見たり

与板地域は直江兼統の良妻「お船の方」ゆかりの地。兼統直属の家臣団であった「与板衆」は、その献身的な忠誠心と固い結束力で結ばれていたといえます。

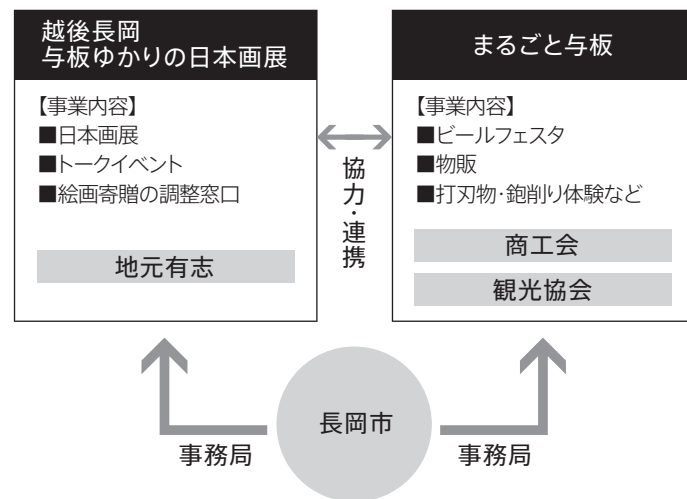
このたびの「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」の成功は、2年の長期にわたる実行委員会の熱い想いと周到な準備があつてこそ。当日は与板の小・中学生たちが展覧会に訪れ、講演会にも参加し、三画伯に質問をするなど、与板地域のみごとな結束力が展覧会全体を盛り上げていました。

三画伯のお人柄は清廉で温厚、作品からは、ふるさとへのあたたかく真摯な想いが伝わってきます。これからも三画伯と与板衆との絆の中で、たくさんの物語がうまれることを期待しています。

皆様の益々のご発展をお祈り致しますと共に、素敵なご縁を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」「まるごと与板」事業概要

「アオーレ長岡」のオープンを祝い、住民がひとつになり、与板の魅力を全国に発信する。



| | 越後長岡 与板ゆかりの日本画展 | まるごと与板 |
|-----|--|--|
| 期日 | 日本画展 平成24年6月8日(金)～17日(日) トークイベント 平成24年6月16日(土) | 平成24年6月16日(土) |
| 会場 | 日本画展 アオーレ長岡3階 市民交流ホールB・C トークイベント アオーレ長岡1階 市民交流ホールA | アオーレ長岡1階 ナカドマ |
| 内容 | 日本画展 大矢紀画伯、三輪晃久画伯、大矢十四彦画伯の日本画展 トークイベント 「三画伯が語る現代日本画の魅力」 | 中川清兵衛サッポロビールフェスタ、特産品販売、打刃物体験、鉋削り体験、拓本体験、与板十五夜まつりPR |
| その他 | 日本画展に合わせて、三画伯から下記作品が市に寄贈 大矢紀画伯:「妙見天空」(100号) 三輪晃久画伯:「八海山」(150号) 大矢十四彦画伯:「明けゆく」(変形150号) | |



座談会 「つなげる」「伝える」

「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」「まるごと与板」は、予想以上の来場者で賑わい、大成功で幕を閉じました。そこで、その成果を次世代に「つなげる」「伝える」ため、実行委員による座談会を開催し、これまでの取り組みを振り返りました。

【日時】平成24年12月3日(金) 【会場】与板支所3階第2会議室



Round-table talk

始めたきっかけ

内藤 私は三輪晃久先生とは、楽山苑ライトアップを通じて懇意にさせていただいております。故人である駒形十吉氏が、三輪晃勢先生の絵を求められて屏風にされたのですが、中越地震で傷んで修復することになりました。その修復の際、十吉氏の孫で高校の同期である豊氏と関わらせて頂きました。

3年前の2月、駒形豊氏から与板には大矢家、三輪家という画家さんがいらっしゃるの、アオーレ長岡のオープニングに「長岡ゆかりの日本画展」をやらないかという話がありました。

幸い名誉市民である大矢紀先生は、与板小中学校に絵画指導においてになっておられる縁もあり、又山崎

実行委員長が同級生ということもあり、私なりに手応えを感じました。

私達は昭和60年に「与板日々の会」を組織し町おこしに取り組み始めました。以後楽山苑ライトアップ事業を、合併を機に「好きらてよいた」を立ち上げ、大河ドラマを通じての町おこしをはじめ、現在もほかにいろいろな活動しております。

日本画展をアオーレで実施することは、与板の魅力在全国に発信できる絶好のチャンスととらえ、二年余りに渡って綿密に準備を進めてまいりました。

一昨年12月、絵画展には各地から大勢のお客様がおいでになるだろうから、与板が一つになってアピール出来ないかという話を持ち上げました。そして与板観光協会と与板町商工

会が時間のない中、急遽協力してビールフェスタをはじめ「まるごと与板」を同時開催することになりました。

山崎 三画伯と与板との関わりについては、大矢紀先生と、大矢十四彦先生は、与板でお生まれになられたことから、幼少の頃からの付き合いがありました。

三輪晃久先生は、多くの与板住民が誇りに思っている楽山亭を、三輪先生のご先祖である三輪潤太郎氏が贅を尽くしてお建てになられたことから、そのご縁が今も続いているところがあります。そうした与板とのご縁を頼りにして、三画伯に、日本画展の提案をさせていただいたところ、三画伯とも、快くお引き受けいただくことができました。日本画展が閉幕した後に、三画伯から「あれだけ多くの人

に見ていただいてよかった」と言っていたら、本当にほっとした思いがありました。

佐藤 まるごと与板は、商工会と観光協会で資金を出し合い、不足分を寄付集めし、実施したわけですが、お金がない、時間がないという中で大変でした。またその中で、与板十五夜まつりの屋台を出すかどうかというところで町内と話をするのが大変でした。屋台の出店は残念ながら実現に至りませんでした。もう少し時間をかけてやれば、今後可能性があるのではないかと考えています。

風間 与板がひとつにまとまろうという大きな目標がみんなの気持ちの

ですから、お忙しいことはわかっていました。無理を承知でお願いしたところ、快くお引き受けいただき心からありがたいと思っています。

自慢話

中村 当初、サッポロビールの「風味爽快ニシテ」が7月のビールフェスタでお披露目予定だったのが、まるごと与板までに間に合わせますと言っていたいただきました。20リットルの樽を30樽も持っていきましたがすべて完売でした。美味しいビールを皆さんに飲んでいただけて本当に良かったです。

船津 私は日本画展の会場の雰囲気

を華やかに盛り上げるため、鉦(かな)の削りくずを使用して作った削り華を会場に展示しました。削りたての木の香りをみなさんに楽しんでもらうために、直前に削り華を作らなければならず、非常に忙しかったです。全国削りくず会にありました。その目標はある程度達成したのかなと思っています。与板おけさと与板囃子を会場の皆さんと一体になって踊ったというのは、与板のいいPRになったのではないかと考えています。

山田 昨年12月に、「与板デー(まるごと与板)」をやるかという話がありました。

最初は、時間もなくて、お金もなく、そうしたくないづくしの中でしたが、私としては与板のPRの絶好のチャンスだと思わずに賛成しました。

内藤 大変だったのは、三画伯によるトークイベントの日程調整ですね。三画伯は日本画壇の重鎮の先生方

を勉強できたのもよかったですね。また、系図を見ていた人は本当に多かったです。

浜田 トークイベントに関して話させていただきますと、当初は三画伯による日本画展だけの予定でしたが、せっかくの機会でしたので「三画伯を招いて話してもらったらどうか」という意見を受けて企画しました。三画伯のトークイベントは、入場できない人がいて申し訳なかったですね。当初は、満員になればいいなと思っていました。しかし、当日は会場に入りたくても入れない人が大勢いました。また、トークイベントで先生方に質問をする場面では、与板の小中学生から三画伯に質問するという形をとりました。子どもたちだからこそ聞ける内容だったので、会場が一気に盛り上がり、とても良かったと思います。

内藤 自慢できるものは、みんなで力を合わせて一生懸命やったことに尽きますね。次から次へと色々な問題が出てきましたが、それも受けとめながらももっと良くしよう、もっと良くしようみんなが動いたことで「人」の力の偉大さを痛感しました。これこそがこれまで与板が積み重ねてきたことの集大成であったと言えます。

これぞ「まるごと」だった話

山田 与板小学校の全校生徒が来場してくれたことが非常に印象的でした。与板町商工会女性部のお船なべを子どもたちみんなが美味しく食べていたのでとても嬉しかったです。

浜田 ボランティアの方々が、本当に協力的にやっていただきました。ボランティアをお願いすると、二つ返事で賛同いただきました。これほど多くの

方に関わっていただけたのは、大変ありがたいことであり、これぞ与板の持つ力であったと実感しています。

船津 協賛金を集めたとき、皆さんが快く協力していただきました。その際、大勢の人から、エールを頂戴し、与板の人たちの優しさを感じました。

内藤 ボランティアの監視員に、「(名誉なことだから)ぜひ自分を使ってもらいたい」という言葉をいただいて、大変感動しました。

未来へ向けて

山崎 城下町与板には豊かな歴史と文化があり、先人が積み重ねてきたことが、日本画展で花開いたと思います。さらに、アオーレ長岡のオープニングイベントで、合併地域の特色を発信していくイベントを与板が先駆的にやったことは、自負していいと思います。まだまだ、与板には宝物がいっぱい眠っており、若い人からもその辺を認識してもらいたいと思います。私の住んでいる本与板だけでも、すばらしいものがあり、本与板の地名の由来を調査して残したいと思っています。今回の日本画展を契機として、次の世代につなげていきたいと考えています。

山田 天地人の時に「まちの駅」ができ、全国から入りきれない位の観光

客の方がお見えになりました。ガイド会はその時に現在の形で立ち上がり、現在も訪ねて来るお客さんがいます。それと、与板の町は昔からの「鍛冶屋まち」で、朝早くからトントントンと町のあちこちで音がしていました。そういう伝統を引き継ぐ人がいなくなってしまいます。与板の伝統産業の打刃物を大事にして無くさないようにしないといけないと考えています。

風間 後継者を育てなくてはいけない話も出てきていましたが、いかに、与板で居をかまえてもらうか、その基盤を整えながら、次世代を担うであろう若者をいかに巻き込んでいこうかがこれからの与板の未来を考えていくうえでは重要なのではないかと思います。

内藤 与板の「人の力」が結集して来たことであり、やりがいもありましたし無事終わって嬉しく思っています。

表にはあまりでませんでしたが、今回は行政の大きな後押しがありました。

日本画展を担当した笠原典明さん、まるごと与板を担当した小林隆さんの2人を始め与板支所職員の協力は本当に心強く、良くやっていただき感謝しております。

これからの与板は、次代を担うもつと若い人達から参加してもらい一緒にやっていかなければならないと思っています。

風間 5年10年後の与板に、このたびの取り組みがどのように残っていくかが課題で「はい終わりました」ではありません。このたびのことを出発点として、さらに、素晴らしいまちづくりに取り組んでいきたいですね。

中村 与板には、先人の作り上げた莫大な財産がいっぱい残っているので、イベントを作りやすいと思います。伝統ある与板十五夜まつりの屋台のこともあります。大変だなと思うことなく、楽しんでやればどんなことでもできます。これからも、自分の町内だけでなく、全町内で取り組んでいて欲しい。そうすることで、与板が、さらに誇れる町になると思います。

座談会 参加者

越後長岡 与板ゆかりの日本画展 実行委員会

山崎 忠彌 (実行委員長)
内藤 隆 (副実行委員長)
駒形 豊 (副実行委員長)
浜田 明 (実行委員)
船津 千代子 (実行委員)

まるごと与板実行委員会

佐藤 誠一 (実行委員長)
中村 登 (副実行委員長)
風間 清文 (実行委員)
山田 和子 (実行委員)





まるごと与板 実行委員 ①現住所 ②職業等 ③地域づくり活動

佐藤 誠一 実行委員長



実行予算のあての無いところに計画期間が7ヶ月しかないにも関わらず、実行委員から盛りだくさんの事業計画が提案されました。与板らしさといえば「登り屋台」ということでしたが、全ての条件が整わなくて断念せざるを得ませんでした。けれど実現に関して多くの課題を勉強させて頂きました。そして多くの方々から快く協力を頂きましたことにも感謝申し上げます。①与板地域 ②製菓業 ③与板観光協会会長

中村 登 副実行委員長



与板のピールフェスタをアオーレで開催しようと、与板での本番のPRを兼ねて取り組みいたしました。地元与板で開催する時とは違い、初めてで勝手が分からず苦労もいたしましたが、サッポロビールの協力により新潟限定ビール「風味爽快ニシテ」を多くの皆様に味わっていただき、盛況のうちに終了することができました。今後も与板を盛り上げるために取組んで行きたいと思っております。①与板地域 ②建設業 ③与板町商工会副会長、与板町商工会まちづくり委員会会長 他

大橋 仙太郎



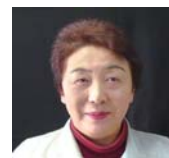
「まるごと与板」の実行委員として参加させていただき、とても良い経験をさせていただきました。始めはこんな大それた企画は無理だと思いましたが、だんだん熱が入り十五夜の屋台を持ち出す話も…。ここまで良くまとめ上げたと思います。今後も与板を発信する良い機会として、来年も企画しては?と思っています。①与板地域 ②豆腐店 ③与板観光協会理事

大橋 信子



地元与板での開催と違い、アオーレ長岡という大きな会場で与板の人が頑張ってイベントをする良さがありました。私も会場に多くの方々から足を運んでもらうため、長岡の知り合いにチラシを配ったり直接PRしたりしました。当日は大勢の方々から楽しんでいただき、担当したお船なべもすぐに完売になりました。色々大変でしたが、与板地域みんなの協力で成しとげることができたと思います。①与板地域 ②飲食店 ③与板観光協会理事

山田 和子



今回のイベントに「まちの駅」として特産品販売で参加をさせて頂きました。特に16日は「まるごと与板」の名にふさわしく、アオーレが大勢の人々で賑わいました。与板打刃物・銘菓・パンにお惣菜、それに野菜等、与板の特産品を大いにPRさせて頂きました。「城下町与板ここにあり」すごいパワーだと思います。①与板地域 ②まちの駅よいた ③与板観光協会事務局長

碓氷 淑郎 副実行委員長



初めてアオーレでの事業でしたので、少し心配もありましたが、実行委員スタッフ・商工会・産業建設課等皆さんの早朝から深夜までのご協力により、「まるごと与板」のイベントを無事終了することができました。大変ありがとうございました。①与板地域 ②鍛冶 ③与板町商工会副会長

内藤 和男



越後長岡与板衆ここにあり、そんな意気込みで参加をしました。与板と言えば十五夜まつりの登り屋台です。屋台の展示運行は叶いませんでしたが、提灯と法被、映像でまつりの雰囲気表現しました。色々な団体の人が協力し合いながら実施した初めてのイベント「まるごと与板」。想像以上の人出と、たくさんの人と与板の魅力を発信できて良かったと思います。①与板地域 ②洋品店 ③与板観光協会理事

大平 美恵子



与板人はやたら真面目で批判好き。誰もが口を開くと「この町はまとまらないのが欠点」と言う。それでいて心底与板が好きなので、火が付くと事は一気に燃え上がる。歴史ある登り屋台を大手通りで曳き回したらとのアイデアはそんなに観たければ与板へ出かけて来いとフラレたが、これも与板の矜持なのだろう。愛するがゆえの気難しさは実は得難い宝物なのかも。与板人で良かった。①与板地域 ②長岡市議会議員 ③与板観光協会、好きらてよいた事務局

船津 祐司



「まるごと与板」では与板の地場産業の打刃物を使った木材の削り体験を担当しました。与板小学校の児童を初め、多くの子も達から参加いただき、与板打刃物の切れ味を楽しんで体験してもらうことができました。自分が鉋を使ってこんなに薄く木を削ることを心の底から喜び・楽しんでいる子ども達の姿に、スタッフ一同感激いたしました。これからもこのようなイベントを通し与板打刃物の良さを伝えて行きたいと思っております。①与板地域 ②鍛冶 ③越後与板打刃物組合長



子どもたちによるフラの披露



山崎 忠 彌 実行委員長



ものごとというのは、ご縁というか、人間の因縁というのありがたいと思っています。1人ではやれないことが、こうやって、大勢の人たちがまとまればできます。そのとき最高の充実感があります。こうして、皆さんと一緒にできたことを感謝申し上げます。①与板地域 ②農業、元与板町長 ③直江兼続公を顕彰する会 副会長、本与板城跡史蹟保存会長

駒形 豊 副実行委員長



与板から日本を代表する画家を3人も輩出していることは凄いことです。日本画展・トークイベントともに成功できたのも、皆さんの頑張りがあったからだだと思います。与板のパワーを感じました。これで終わらせることなく、何年後か先に、また開催できたらと思います。①長岡地域 ②事務機器会社経営 ③与板が好きに応援団。特に、芸術の造詣が深い。

浜田 明 第一部会長



皆様からご協力いただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。自分は、絵画展の中のトークイベントを提案しました。最初は、どのようになるのかが分かりませんでした。いい流れで実行できましたことに感謝申し上げます。特に、多くの人たちから、子どもたちが先生方に対する質問の姿を褒められました。子どもに負けてしまったと思います(笑)。本当に、皆様からご協力いただきましたことで、このように素晴らしいイベントができました。ありがとうございました。①与板地域 ②表具師 ③良寛会代表など多数。

高橋 良成



とても有意義でした。多くのことを勉強させていただけたこと、感謝申し上げます。そして関わりの中で得たことを今後に活かしていきたいと思えます。いつの日かこのイベントが「小さな一歩」と思えるような活動を皆さんと一緒にできたら嬉しいです。①与板地域 ②鍼灸院経営 ③チャイルドサポート与板代表、SP隊員など多数。



日本画展の会場風景

内藤 隆 副実行委員長



日本画展の準備を含め、11日間、毎日通わせていただきました。会場のお客さまから、絵を褒められ、画家を褒められ、与板も褒められました。しかし、そうしたお客さまの中で、「兼続の与板はどこにあるのか」という方が5、6人おられました。そこで感じたのは、三島郡の郡都、天地人の与板は、それなりの知名度があると思っていましたが、自分たちの思い上がりだということに気がきました。長岡市の人口の40分の1の与板は、やっぱりこの程度かと。そうしたことから、与板が1つになって、与板をアピールし、地域おこしをすることが大切です。日本画展は、その一つの手段でしたが、まだまだ、これから手を出して、みんなで力を出してやっていくことが、地域の活性化につながるのだと改めて感じました。多くの皆さまのお力添えを賜り、無事に終了させていただきまして、誠にありがとうございました。①与板地域 ②自動車販売整備業 ③好きから与板相談役、楽山苑ライトアップ実行委員会事務局

吉川 實 監事・第二部会長



世間に無いことをやったということで、参加した人たちは、ものすごい勉強になったのではないかと考えています。だれもやれないことをやった後の充実感はずいということを改めて感じています。この次、また新しいことに会うことを楽しみにしています。みんなで、頑張りましょう。①与板地域 ②無職 ③楽山苑ライトアップ 実行委員など多数。まちづくりのご意見番。

風間 清文 (まるごと与板実行委員兼務)



これからの与板のまちづくりのために、皆様のお力をお出しいただき、ありがとうございました。この日本画展を1つの足掛かりとして、住民一丸となった「まるごと与板」も開催できたことは、大変感動いたしました。これが5年、10年の未来に向けての与板住民パワーの源とっております。皆様の御協力をこれからもどうぞよろしくお願いいたします。①与板地域②瓦工業③好きからよいた代表、楽山苑ライトアップ実行委員会実行委員長、よいたコミュニティ推進準備委員会副委員長

吉田 直治



今まで、色々なことに携わってきましたが、与板を一番の誇りに思います。官、民の「民」が一生懸命になって、官を動かした。このことは、何処にも無い素晴らしいことであり、本当に誇れることであると思います。何処でも官が主体となって、民が動くということです。ところが与板は違います。ライトアップを始め、色々「民」が動いています。こういう例は、ほとんどないと思います。素晴らしいことです。このことは与板の皆さまが、胸を張って誇りに思っていることだと思います。今後も、与板は、もっともっと日本画展を出発点にしてさらに発展して欲しい、それが、現在退職した私の「夢職」です。①長岡地域 ②画家。高柳の古民家風景を、春夏秋冬、25年以上描き続けています。③与板が大好きな応援団。長年、与板のまちづくりに尽力。



お茶のおもてなしの会場風景

船津 千代子



日本画展の準備・運営を通じて、目いっぱいハッスルしました。でも、すごく楽しかったです。いつまでも思い出に残るでしょう。最後まで皆さんと共に楽しく活動させていただき、最高でした。ここまでやれたということで、今は、自分にご褒美をあげたいと思います。①与板地域 ②鍛冶職人の妻 ③削り華の第一人者。夫とともに、国内外に「削り華」の普及活動を行い、地域内の各種イベントにも参加。※削り華：鉦の削りくずで作る魅力的な花。

石丸 優子



自分は、途中から実行委員会に入りましたが、最初は、何がなんだか分からない状態でした。しかし、日本画展で、あれだけの作品が一堂に集まったということが、夢のような話で、観客が帰った後の会場でゆっくりと絵と対面した至福の時間は、一生忘れられません。本当に良い時間をもたせてもらったと思いました。先生方のお言葉もありましたけれども、最高の時間でした。ありがとうございました。①与板地域 ②元高校教諭 ③なごみの会代表。楽山亭で毎週日曜日、お茶会、かるた、聞香など日本の文化を開催。

浅野 光仁



このような会に参加できて、個人的に大変勉強になりました。与板の子どもたちが、トークイベントのボランティアをいきいきと楽しそうに取り組んでいる姿が特に印象に残っています。とても良いイベントだったと思います。ありがとうございました。①与板地域 ②ガソリン販売業 ③消防団与板方面隊第四分団1部員

穂刈 幸男



与板のまちづくりは一番です。与板は、これからも、さらに、活力ある素晴らしいまちになると思います。このたびの成果を、与板の子や孫の代に、また、ご協力頂いた皆様に伝えることが重要だと思います。ありがとうございました。①中之島地域 ②会社員 ③勝手な応援団。

風間 勇一



私は主に、茶席を担当しました。茶席の中で「楽山苑」の写真と「なごみの会」の写真を展示しました。お客さんの反応を見ると、「楽山苑」の知名度が非常に高いのに、「与板がどの辺りにあるのかわからない。」といったお客さんが結構いました。それと、楽山苑という名前は口コミですかね。非常に知名度が高いです。楽山苑を中心に売り出して行ったら良いのではないかと思います。そして、茶席は、非常に良く出来ました。場所も良かったし、お茶というものは雰囲気飲むものですが、その雰囲気がとても良かったので、お客様から沢山お礼を言われました。茶席に家元も来られました。後日、家元から改めて御礼の電話をいただきました。私は「ああ、良かったな」と思っております。皆様に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。①与板地域 ②自営業 ③茶人。手作りの木工細工で、地域の子どもの夢を大切にしている。

山田 博章 (まるごと与板実行委員兼務)



最初は、与板の若手の中で、何も知らず、分からずに参加しましたが、このような、長岡市を動かす大きなイベントに参加できたことに御礼申し上げます。若手の代表として思うことは、「与板の宝を世に出せば良いな」という目標を持ちながら、今後も、今までに教えていただいたことを糧にして、頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。①与板地域 ②飲食店経営 ③与板観光協会 理事、消防団与板方面隊第三分団2部長

阿部 修靖



今回のイベントに借越ながら、途中から携わらせて頂きました。残念ながら諸事情により、トークイベントに出席できず、絵画も鑑賞することができませんでした。しかし、DVDを拝見し、先生方の感情の豊かさやプラスのイメージなど、三画伯の偉大さを実感したと同時に大変勉強になりました。最後に、素晴らしい志をお持ちの実行委員の皆さん仲間に加えて頂いたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。①与板地域 ②会社役員 ③与板地域委員

松永 辰夫



日本画展が大成功で終了できたのも、実行委員が熱意を持って取り組んできた成果だと思います。皆さまの多大なるお力添えに深く感謝いたします。また、日本画展の実行委員会の中で「日本画展に合わせて、アオーレのオープニングイベントをオール与板で実施しよう」と提案があり、与板町商工会、与板観光協会を中心に食と伝統文化の「まるごと与板」が開催されました。両イベントをきっかけに与板地域が一体になったことは、大変素晴らしいことだと思います。今回実現はしませんでした。イベントに合わせて与板十五夜まつりの「登り屋台」をアオーレに持ってこうという提案もありました。「与板をもっとPRしたい」という地元の思いは、今後につながっていくと感じています。①与板地域 ②長岡市与板支所長



ボランティアに参加した与板中学校の生徒たち



与板小学校の子どもたちがトークイベントで三画伯御夫妻に花束(削り華)を贈呈

越後長岡 与板ゆかりの日本画展

ボランティアのみなさん

小林多加志



大矢紀・三輪晃久・大矢十四彦先生の「日本画展」の受付をさせていただきました。長岡市民、与板地域の皆さんの鑑賞はもとより、新潟市、三条市など県内各地より多数お越しいただきました。中でも、「東京より新幹線でこの企画を見に来た」との初老のご夫婦がおられました。三人の先生方の「稀有な日本画展の魅力」に触れ、感動と感謝をいただきました。

川田弘子



県立近代美術館での勤務経験を生かせると思い、ボランティアに申し込みました。監視員として、作品をお守りし、事故なく無事に日本画展を終了することができて良かったです。美術館のような環境が整った会場ではありませんでしたが、普段はなかなか見ることのできない日本画の大作を、誰もが気軽に鑑賞できる良い展覧会だったと思います。

風間謙一



私は日本画のことはよく判りませんが、実行委員の皆さんの頑張る姿を見て、「何か協力できることはないか」と思い、ボランティアに申し込みました。三画伯と与板との縁に感謝するとともに、「日本を代表する画伯から、絵画指導を受けたり、お話を伺うことができる」と改めまして感じました。

早川貴和子



日本画展のボランティアとして協力させていただきました。期間中は大変多くのお客さまからお越しいただきましたが、マナーを守って見学されていたことが印象に残っています。私自身も会場で日本を代表する三画伯の作品に魅了され、このような展覧会に参加できたことを誇りに思います。

安部レイ子 茶友会 代表



日本画展にお越しいただいた方に「癒しの場」の提供をということで、「お茶のおもてなし」の協力をさせていただきました。アオーレ長岡の現代的な建築を生かし、みんなの工夫でお茶の雰囲気合う和の空間を作り上げることができて、自分たちも楽しみながら、おもてなしをすることができました。さらに、昔の知人との再会や、思いがけない出会いもあり、充実した日々でした。

山田未由 与板小学校 6年



私は絵を描くのが好きで、大矢紀先生に聞いてみたいことがあり、トークイベントの質問者に立候補しました。大矢先生は小さい頃から絵を描くのが得意で、画家を目指していたと思っていたので、「絵を好きになったきっかけ」を聞きました。しかし、「中学までは、将来考古学をやりたいと思っていたが、高校の時に見た展覧会で衝撃を受け、それから画家を志した」と答えられ、とてもびっくりしました。私にもそんな出会いがあるといいなと思いました。

長谷川美月 与板中学校 2年



私は、あいさつや会場までの道案内、チラシ配りなどを担当しました。来場するお客様から「がんばってね」「ありがとう」と声をかけていただき、とても嬉しかったです。トークイベントでは、大矢十四彦先生に「同じ画家としてお兄さんの紀先生をどう思うか」と質問させていただきました。答えにくい質問にもかかわらず、笑顔でお答えいただき、本当に感謝しています。

伊林賢吾 正徳館高校 1年



私は日本画展の受付や誘導係を担当しました。来場された方々が絵に魅了され、感動している姿を見て、三画伯の描く日本画の素晴らしさを改めて知ることができました。日本を代表する日本画の巨匠が身近にいることを誇りに思います。そして、またこのような機会があれば、ぜひ協力したいです。

まるごと与板 協力団体のみなさん

上村由起子 与板町商工会女性部長



与板一色に染まった6月16日。女性部は前日から鍋で使う野菜の下準備をし、期待に胸を膨らませ会場に到着。お船鍋を五百杯近く振る舞いました。小学生からはお礼の手紙をいただきました。日本画展やビールフェスタなど、与板の魅力発信をアオーレでやって大成功だったと思います。大変でしたが、またやりたいですね。

滝沢宏美 フラ「ブア・ナーナラー」



会場には、すでにたくさんの人が集まっていた。緊張が走り、自分に活を入れて舞台へ…。ビールフェスタを楽しんでいるお客様の様子が良く見えました。私達のフラダンスも大きな拍手をいただき喜びと充実感で一杯になりました。アオーレから与板を発信した記念すべき日に参加できたこと、こころから感謝します。マハロ!! ※マハロ:ハワイ語で感謝・ありがとうの意味。

石黒日出榮 与板民謡たちばな会 会長



「まるごと与板」に参加ができて感謝申し上げます。たちばな会は午後四時から始まりステージにて与板民謡を三曲踊り、最後の踊りは会場にて皆さんの席を廻り非常に良かったと思います。与板地域の皆さんを始め会場の市民の皆さんから手拍子と声をかけていただき楽しく終わることができて、ありがとうございました。

中野武夫 村のかじや 代表



与板をあげての一大イベント、「まるごと与板」に参加させて頂きありがとうございました。あいにくの小雨降る中ではありましたが、大勢の人達から刃物造りの古式鍛錬儀式を見ていただき大変緊張しました。また与板小学校四年生を始めとして多くの子供さんからも見ていただき、刃物に関心を持っていただけるとは嬉しい事でした。今後も一生懸命に刃物造りを行いたいと思っています。



村のかじやによる古式鍛錬儀式(ノミ製造)

小林修 城山鼓友会 会長



アオーレで多くの市民に橋太鼓を聴いていただく絶好の機会と思い、「与板橋太鼓ここにあり!」と演奏にもひときわ力が入りました。正に与板の魅力を少しはお伝えできたかなと思います。子ども達にも良い思い出になったこと、会の宣伝にも大変有意義なオープニングイベントでした。

佐々木一昭 与板拓遊会 会長



「あつ拓本だ」「拓本の先生達がいる」与板小学校の子ども達が声をかけてくれました。拓本を体験されていた市内の主婦の方から「与板では子どもさんも拓本を知っているんですね。各地には昔の貴重な文化遺産として、深い建立の言われを後世に伝える石碑がたくさんありますよね。それを採拓して伝えている皆さんは素晴らしい!」こんなコメントをいただきました。

ツよいったー ご当地ヒロイン



与板の歴史的1ページ「まるごと与板」に出演することができ、私達にとって記念すべき1日となりました。会場の皆様から、あたたかい拍手や、ご声援をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。「与板を愛す・与板を食す・与板を笑わす」をモットーに今後も与板の魅力を発信していきます。

担当事務局

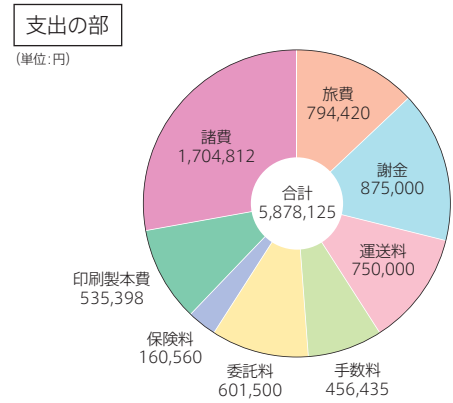
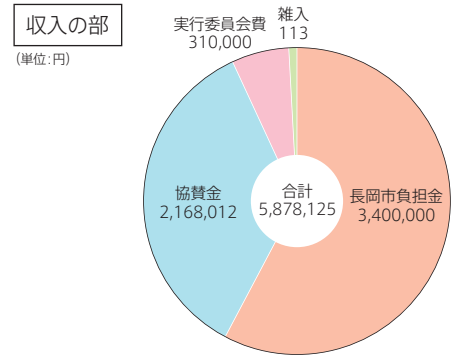


皆様の御協力のおかげで、無事にイベントを終了することができました。厚く御礼申し上げます。これで終わることなく、これからが始まりだという気持ちで、与板の魅力発信に取り組んでいきます。今後も与板地域のために、皆様からのお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

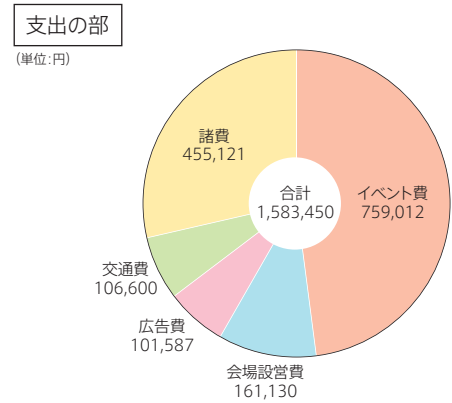
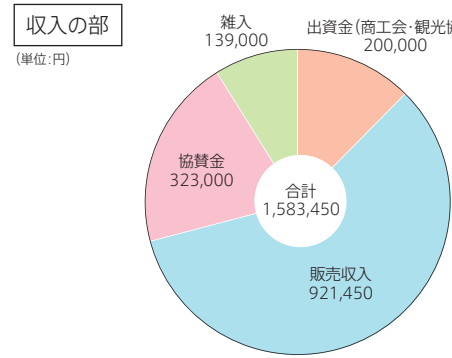


会場が一体となった「与板囃子」

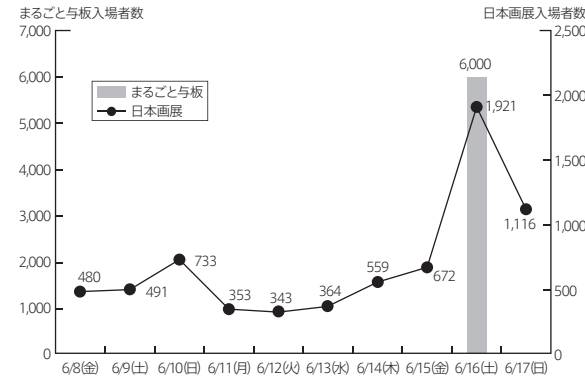
越後長岡 与板ゆかりの日本画展実行委員会
収支決算(平成23年度・24年度)



まるごと与板実行委員会
収支決算(平成24年度)



来場者数推移



来場者数

越後長岡 与板ゆかりの日本画展 計 **7,032**人
 まるごと与板 計 **6,000**人

- 素晴らしい。地元の素晴らしい画家の絵を鑑賞できてよかった。絵画は特に知らず、三先生も存じ上げていなかったがこのような企画で知ることができてよかった。(長岡市・30代・男性)
- 芸術に携わっているのでとても感動、新しい作品を作る意欲が出てきました。芸術を通して何かを伝えることができる先生方は素晴らしいと思い、また若い世代の人たちがこの作品を通して芸術に目覚めることがあれば本当にうれしいです。(大阪府・20代・男性)
- とても素晴らしかったです。三先生のようになれるかどうかわかりませんが、美術をがんばりたいです。(与板町・10代・女性)

「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」へ寄せられたメッセージ

- どの絵もすばらしい。ひと言では言い表せません。この催しの企画が良かった。ゆっくりとすばらしい絵を鑑賞でき、説明・解説もよかったです。三先生のいっそうのご発展を祈ります。観覧者に配慮され、気持ちにうるおいを与えてくれた企画に感謝いたします。(長岡市・80歳以上・男性)
- 新潟県の宝物ですね。素晴らしい作品に触れる機会に感謝します。(魚沼市・70代・男性)
- 地元で立派な方が居られることを最近知り、驚きました。今回初めてじっくり鑑賞させていただき、本当に感動いたしました。近いうちにまた機会を与えてくださることを切望しております。(新潟県内・70代・男性)
- 3人の先生方の大作を目の前に与板人としてとても嬉しく思いました。こんな機会がまたあることを願っております。与板の小・中学生も来ていて、自分たちの町にゆかりのある先生方の大きさにじかに触れ、今後の励みになってもらいたいです。(与板町・60代・女性)
- 素晴らしい絵画に感動いたしました。(十日町市・60代・女性)
- なかなか観ることのできない大先生方の作品を間近に観ることができました。またよろしくをお願いします。(燕市・60代・女性)
- 絵に吸い込まれました。豪快さ、美しさ、金色、静けさ、時代劇を見ているようです。心が非常に落ちつき、また元気を頂きました。ありがとうございました。“削り華”初見です。美しく見事です。(練馬区・60代・女性)
- アオーレに真の文化が登場したことが嬉しいです。実行委員ファイト。お疲れ様です。燃え尽きないでください。(長岡市・50代・男性)
- 普段は美術館に足を入れることはほとんどありませんが、今回ダイナミックなすばらしい作品を無料で見せていただきありがとうございます。また時間を見て学校の時に習った絵を描いたりすることを始めてみたいと思います。(長岡市・40代・男性)

上記のほか、200以上の温かいメッセージが寄せられました。ありがとうございました。

| | |
|-----|--|
| 10月 | ・次年度についても実施の方向で決定 ・決算報告 ・トークイベントDVDを市内小・中学校、関係者に配布 |
| 9月 | ・平成24年度決算報告 |
| 8月 | ・第16回越後長岡与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・大矢紀画伯、大矢十四彦画伯宅にお礼の訪問 |
| 7月 | ・三画伯御夫妻歓迎レセプションを開催(16日) ・第11回まるごと与板実行委員会を開催 ・事業報告および反省会 ・第15回越後長岡与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・事業報告および反省会 ・三輪晃久画伯宅にお礼の訪問 ・大矢紀画伯、大矢十四彦画伯宅にお礼の訪問 |
| 6月 | ・第14回越後長岡与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・日本画展「トークイベント」の最終確認 |
| 5月 | ・第9回まるごと与板実行委員会を開催 ・出演・参加団体と最終確認 ・日本画展のボランティアスタッフ説明会を開催 |
| 4月 | ・三画伯御夫妻と日本画展「トークイベント」の会場視察 ・アオーレ長岡オープン記念式典に三画伯御夫妻が出席 ・第13回越後長岡与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・平成23年度決算・会計監査報告、平成24年度予算の決定 ・日本画展のボランティアスタッフを募集 |
| 3月 | ・第9回まるごと与板実行委員会を開催 ・三画伯御夫妻の来訪に合わせ、日本画展実行委員で歓迎レセプションを開催 ・アオーレ長岡オープン記念式典に三画伯御夫妻が出席 |
| 2月 | ・大矢紀画伯が長岡市に「北の胎動」500号を寄贈 |
| 1月 | ・大矢紀画伯のアオーレ長岡来訪に伴い、日本画展実行委員でおもてなし ・第5回まるごと与板実行委員会を開催 ・事業内容をヒールフェスタ、特産品販売 打刃物体験、鉦削り体験、拓本体験、与板十五夜まつりのPRで決定 ・まるごと与板実行委員、アオーレ長岡会場視察 ・三画伯御夫妻の来訪に合わせ、日本画展実行委員で歓迎レセプションを開催 ・アオーレ長岡オープン記念式典に三画伯御夫妻が出席 |

| | |
|---------|--|
| 平成24年1月 | ・イベント名称を「まるごと与板」に決定 ・協賛金集めを開始 |
| 12月 | ・日本画展関連イベントを与板町商工会・与板観光協会に提案 ・「与板」(仮称)を商工会協力のもと、観光協会が主体となり実施することで決定 ・第1回与板実行委員会を開催 ・与板十五夜まつりの「登り屋台」・「ヒールフェスタ」体験(削り・拓本・鍛冶、お船鍋の内容で協議) |
| 11月 | ・第2回与板実行委員会を開催 ・イベント名称を「まるごと与板」に決定 ・協賛金集めを開始 |
| 10月 | ・第8回越後長岡与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・日本画展来場者へのお茶のおもてなし、削り華の製作、トークイベントのDVD作成が決定 ・日本画展を盛り上げる関連イベントとして、登り屋台の紹介や打刃物体験等の企画が持ち上がる ・三輪晃久画伯宅に訪問、打合せ |
| 9月 | ・第7回越後長岡与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・第1部会(イベント担当)、第2部会(広報・庶務担当)を開設 |
| 8月 | ・第4回越後長岡与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・三画伯から長岡市への絵画寄贈の話がまとまり、調整窓口となる ・第5回越後長岡与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・平成23年度予算の決定 |
| 7月 | ・三輪晃久画伯宅に訪問、打合せ |
| 6月 | ・長岡ゆかりの日本画展(仮称)打合せ ・第1回与板ゆかりの日本画展実行委員会を開催 ・事業内容を大矢紀画伯、三輪晃久画伯、大矢十四彦画伯による日本画展とトークイベントに決定 |
| 5月 | ・アオーレ長岡のオープニングイベントとして、 |

「越後長岡 与板ゆかりの日本画展」まるごと与板の歩み
 ※「日本画展」は黒字、「あお」とは「与板」は青字で表記